



東 玖波中だより No.4



大竹市立玖波中学校 令和6年6月10日

学校教育目標 「『なりたい自分』に向かって、挑戦する生徒の育成」

発行責任者 小田 大介 文責 藤川 健二

体育祭終わる②

地域の方からのメッセージ

一生懸命は格好いい、一生懸命は素敵、一生懸命は美しい

～感動をありがとう、50人の力は∞（限界なし）なり～

- 全てが全力、誰もが限界突破していました。少人数でも協力すれば大きな力になる。1～3年みんなで作った体育祭だと感じました。
- 練習の成果が出た体育祭だと感じました。特に団体競技は素晴らしいパフォーマンスであったと思います。玖波中の若いエネルギーを見せていただきました。
- とても楽しい体育祭でした。みんながアイデアを出し合い真剣に勝ちたい気持ちが伝わってきました。短い時間の練習でこんなに盛り上がった体育祭を作り上げた玖波中の力に感動しました。
- クラスアピールの1年生は入学してまだあどけない顔がかわいかったです。少しずつ中学生になっていくんですね。応援します。応援合戦では赤白組とも軽快なリズムにのって笑顔が素敵な演技でした。練習も準備も大変でしたね。元気をもらいました。
- 応援合戦から始まり、生徒全員が一生懸命に取り組んでいる様子が素敵でした。どの競技の勝敗についてもお互いに称え合う光景、チームワーク、声出しなど、見ていてとても気持ちよくさせてもらいました。ありがとう。
- 玖波中の「楽しさ」を存分に感じる事ができました。それは生徒一人一人、みなさんの体育祭の思いを感じたからです。とりわけ、3年生のリーダーシップは感心しました。さすがです。2年生、そして1年生、3年生のパワーに負けるな！玖波中のみなさんに大いに期待しています。50人の力は50でなく無限大です。
- 全ての生徒のみなさんが、本当に一生懸命参加されていました。誰一人力を抜くことなく、大きな声を出し、キビキビ動いている姿に感動しました。時折見せる中学生らしい笑顔も素敵でした。まさに、全ての生徒が主役である体育祭だったと思います。
- 生徒代表のあいさつは、とても立派でした。1年生の学級発表も元気いっぱい良かったデス。2年生の寸劇は素晴らしかった！3年生のアピールはさすが最上級生と感じられるものでしたヨ。天気も快晴、心も快晴でした。
- 人数の少なさを感じさせないパワーをどの競技からも感じました。体育祭を盛り上げよう！精一杯出し切ろう！という気持ちが一つになって玖波中としての一体感がびしびし伝わりました。自分たちが考えて、いろいろな工夫をして素晴らしい演技を見せてもらいました。さすが中学生！カッコいい姿でした。

団長からのメッセージ

- 競技と応援の優勝を目指して練習してきました。その中で僕は仲間の力に助けられました。練習が始まった頃は、一人一人の思いはバラバラで声も出ていない状況がありました。そんな時に助けてくれたのが同じ学年の3年生でした。また、自分が体調不良で体育祭前の3日間を休んでしまいました。その時に奮闘してくれたのが紅組の仲間でした。仲間が全力で頑張っていることは、友達からのメールで、ひしひしと伝わってきました。その時に一致団結して頑張ってくれた仲間感謝したいです。本番は惜しくも競技優勝には届きませんでした。応援優勝をつかみ取ることができました。この優勝は仲間が頑張ってくれたお陰です。中学校生活最後の体育祭を最高の仲間としめくることが出来て感謝しています。(紅組団長：堀井 大輔)



- 団長としてやるべきことがありましたが、副団長や他の多くの仲間にサポートしてもらいやり切ることができました。練習が始まった頃は、声が小さいことや動きを覚えられていないこと等の心配がありました。しかし、練習をする度に声も大きくなり、ダンスや演舞の動きもスムーズにできるようになりました。日に日に白組全体の雰囲気が明るくなりました。私が失敗しても「大丈夫ですよ」と元気づけてくれたり「もう1回やろう」と声をかけてくれました。本番では、応援もみんなで楽しく、120%の力を出せました。練習では、負けていた競技でも勝つことができ嬉しかったです。団長に挑戦して、挑戦して初めて分ることがありました。団長に挑戦した時は心配で不安でしたが勇気を出してやってみることが大事だと思いました。(白組団長：本山 鈴椰)



令和6年5月25日(土) 体育祭